

ガマのひとりごと

木の話

こんにちは、ガマです。

展示場に来られたお客様が、一応に感嘆されるのが「木の香り」と「木の温もり」です。桧の4寸柱を見せている真壁造りで、ホール

は床が桧、腰板がホワイトウッド、天井は桐。LDKは床・腰板・天井すべてが杉。

柱の間は珪藻土を塗ったり、一部エコカラットを貼ったりしていますので、悪臭を吸収し、「木の香り」がより強調されているようです。

また、「落ち着きますねえ」とおっしゃって下さることが多いのは、肌で「木の温もり」を感じてくださっているためでしょう。お客様は、コーヒーを飲みながら森林浴をされているのです。

木造の家は25年と非木造メーカーなどは主張しますが、木は決して耐久性の弱い素材ではありません。

木は燃え、腐り、白蟻が巣くうといいますが、鉄は錆び、石は摩滅し、割れるといったことと一緒に、素材としての弱点であり、耐久性とは無関係です。

木というのは、伐採してから約200年間は強度が毎年増加し、それからは減少してゆきますが、約1000年で伐採時の強度に戻るといわれています。ただし、強度を保つように、除湿・防蟻・防腐の処理などはしておく方が良いのは確かです。

また、木は燃えますが、表面が炭化しても芯は残っています。炭化皮膜ですね。鉄は600℃で、3分の1の強度になりますが、木は同じ600℃でも炭化皮膜のおかげで倒れません。9.11のニューヨークのワールド・トレードセンターの崩壊を覚えておられるでしょうか。あのビルは建物の中心にエレベーターを集め、鉄筋を多く組んでいたため、前後左右に倒れず、砂時計の砂が落ちるように中心部に崩れていっていましたね。鉄が溶けていったからです。

以前、築150年の古民家のリフォームをしたことがあります。その家が昔火災にあったことは表面が炭化している梁丸太を見てすぐにわかりました。それでも鉾（ちょうな）をかけて、炭化部分をこそげ取り、梁として再利用できるものは使用したのだと施主さんからお聞きしました。ある意味で木のもつ耐久性の証明がされていたわけです。

それから、木はたくさんの空気を集めた細胞から形成されており、コンクリートの12倍の断熱性能をもち、歩いたり、さわったりした時の衝撃を和らげる弾性もそなえていますし、柱1本でビール瓶1本くらいの水分を吸ったり吐いたりする調湿作用があるといわれており、熱伝導率が小さいのでいつでも人肌に近い温湿感があります。この温湿感が心を豊かにしてくれるのです。

木は本当に、住むのにやさしい環境づくりに適した建築素材だと考えています。

追加 3月6日付の読売新聞に「弥生の木製よろい出土」という記事が出ていました。



花粉症のガマです

『奈良県桜井市の大福遺跡で、弥生時代後期後半（2世紀後半）の集落の溝跡から、木製のよろいが出土し、市教委が4日、発表した。全国で木製よろいの出土は約30例あるが、市教委は「残存状態が極めてよく、防具の変遷を考えるうえで貴重な発見だ」としている。』
木は強いものですよ。

我が家のペット

「コク」の思い出

今回は「初代コク」の思い出を語ろうと思う。

「コク」は犬である。

父は「ワン」。北海道産まれの中型中毛の雑種。弟夫婦が飼っていて、一時あずかることとなった。

動物貨物で送られてきて、京都駅に受け取りに行った時、「うわぁ熊や…、熊が入っとる」と駅員がざわめき、さわいでいた。

リンゴ箱に入れられた「ワン」であった。

全身ほぼ真っ黒。胸元に半月形に白く差し毛があり一見熊のようにも見えなくはない。受け口で乱杭歯をかみちらした顔は陰相で獰猛。

お近づきになりたくない感じだったが、同居してみると穏和を絵に描いたような性格。誰が手をだしても吠えもせず、ゆったりと身をまかせているような犬だった。

母は「アンナ」。純血のヨーキー。その母は英国チャンプ直仔で頭毛は深いゴールド、体毛はつややかなスティール・ブルー。体型は理想的箱型のヨーキーだったのに、「アンナ」は体長40センチ、体高35センチ、体重5キロはあり、耳も半折れの不細工なもの。性格も「スカーレット・オハラ」のようだった母に似ず、「末摘花」のように家の隅でうっそりと暮らしている犬だった。

その「アンナ」が家人も知らないうちに4匹の子供を産んだ。1匹だけ、光源氏が「ワン」だった証明のような子犬がいた。

私が飼うことにした。毛並みから「コク」と名付けた。「コク」は体のどこかに欠陥があったのかもしれない。1年たってもメス犬になれなかった。

ただ、体型や面立ちは祖母に似たところもっていた。

性格も利発で活動的、くるりとした丸い目で、私の行動の先を読もう、先を読もうとした。私たちはいつも一緒だった。

食事の時は膝の上にすわり、立とうとすると飛び降りて、顔を見上げる。2階に上がろうとすると、階段下で待ち、来るとわかると一気にかけ上がって下を見ている。

次は部屋のドアの前で待つ。ドアを開けると机の右の引き出しの一番下に入り込む。そこには座布団がひいてあり、我が家で唯一「コク」の占有場所。眠るのもそこであったが、時々ベッドにもぐり込んできた。



「コク」と呼ぶ声のトーンで反応が違ってもいた。赤ん坊をあやすように呼ぶと、体をくの字にまげ、お尻をふりながら近づいてきた。少し強く呼ぶとダーっと走ってきて、手のとどきそうなところで、キッと止まり、逃げ去った。それを幾度も幾度もくり返し、あきなかった。まるで幼子であった。遊び疲れると、私の体のどこかに肌をそわせて横になっていた。楽しく平和な日々だった。

それが「どうして」とあの日の朝のことを今でも考える。

(来月に続く…。)

読後雑感



殿り合う貴族たち 平安朝裏源氏物語

柏書房 繁田信一著

幕末維新の思想的指導者「吉田松陰」は学問の最中、頬にとまった蚊をはらい、教えていた叔父「玉本文之進」から折檻をうけたという。

「学問は国に役立つためであり『公』である。蚊を打つのは自分の感覚のためであり『私』である。『公』よりも『私』を優先することが許せない」というのが玉木の怒りとなったのである。

元総理が息子に地盤をゆずり立候補させるという。

彼には改革者としての清冽さを感じていただけに、だまれていたという気持ちである。『公私』のけじめの無さ、ここに極まれりといった感じだ。そのような気分の時に手にしたのが本書である。

時は平安朝。

「この世をば我が世と思う 望月の

欠けたることも無しと思へば」 と我が世の春を謳歌していた御堂関白「藤原道長」を中心に、その前後の彼の一族の事件簿のような物語。

能力もないのに親の地位により出世をして上級貴族となってゆく者たちの非行。下級貴族へのイジメ・リンチ。従者に対する暴行・殺人。家の破壊や女性への強姦。

「道長」などは自邸の庭の造営のために平安京を破壊している。息子たちも手助けをしてやりたい放題。権力の世襲はつくづく怖いと思わせる。そのような指摘に対して現代の2世3世議員は、選挙民に選ばれた選民だと反論するだろう。

だが心構えにおいてどうだろう。「吉田松陰」がうけたような『公私』のけじめを教育され、覚悟をもっているのだろうか。

今の世の中、平安貴族の子弟たちのような犯罪行為を許してくれるほど甘くはないが、気持ちの面では、50歩100歩。楽をして権力だけは持ちたいという思いが世襲につながっているのではないだろうか。

『公』のため、『国家国民』のために身命を賭すという出处進退がみうけられない。
本書を読むと、国をどのようにするかという経緯もなく、親子兄弟で摂政関白の地位争いをする平安朝の上級貴族の世界が、国民不在で権力闘争にあけくれている今の国会の状況と類似しているようで、うんざりとさせられる。

千の夢話

「作業着が似合う」とよく言われます

8歳の私との約束

先日、20歳下の女の子に「早く結婚した方がいいよ」とアドバイスされた中井千尋です。おしゃまさんだな～と感心したのですが、思い出してみれば、同じ歳の頃、私も、当時父があまりにも亭主関白だったので、母に「離婚したら！？ 私についていくからさ」と生意気なことを言っていました。

今でもよく覚えています。8歳になる春、子ども部屋の勉強机に新しい日記帳を広げ、大きな字で「大きくなったらお母さんに楽をさせる」と書いたこと。ぽかぽかした陽気の日曜日。母は1階で掃除機をかけていて、その音が小さく聞こえていました。

だから、社会人になり、毎月お給料のいくらかを母に渡せるようになったときは、本当に嬉しかった。休みの日、お誕生日、母の希望を聞いて遊びに行ったり、温泉や旅行に連れて行けることが、楽しくてしょうがなかった。女の子を初めてデートに誘う男の子みたいに、あれこれ考え、喜んでもらえると心の中でガッツポーズ。母は面白くないと「イマイチだった～」と遠慮なく言うのですが、言い方が可愛いので、それはそれで私は面白くて笑ってしまうのです。

今の仕事を頑張る原動力も、8歳のときに抱いた「お母さんに楽をさせたい」という気持ちからきているのです。そう、私は母が好きで、ずっと傍にいて老後のお世話ができれば結婚などしなくても良い、と思っているのですが…。

先日も、母が私のシューズケースを無断で弟にあげたことでもめて、怒っていたわけではないし冷静に話していたつもりが、結局は母を泣かせる結果に。大切にしたい気持ちはあるけれど、子どもの中で一番母を悲しませているような気がします。父や妹からも非難されるし、謝っても母の涙は止まらないし、いい歳して親を泣かせる自分にも腹が立つしで、散々でした。

8歳の私に「ちゃんと約束守ってよね」と怒られますね。幼い頃を思い出し、親に感謝して、もっと大切にしないといけないと反省した27歳の私でした。



ブログ「親子で起業 奮戦記 ～帰りたくなる家造りを～」 <http://yu-rinhome.seesaa.net/>
(ユーリンホームで検索してみてください)